

# 家族といっしょに この冬 読書をしてみませんか！



うちどくは、家族みんなで読書をする事です。  
子どもの頃、お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃんに本を読んでもらったこと、ありませんか？

家族みんなで1冊の本を読んで、その本のことで、感じたことを話そう！っていう取り組みです。ただ、一緒に読むだけでも、その時間が子どもたちにとっては宝物になります。



## おすすめの本は？

「家読 100 選」パンフレットに、いろいろなおすすめの本がのっています。家族のみなさんと一緒に見ていただけましたでしょうか？他にも、近くにある図書館へ行ってみるといいです♪ 図書館にいる司書さんに、おすすめの本を聞くと、紹介してくれますよ。



なぜ、家読に取り組むのでしょうか？それには、理由があるのです！

## 家族と話す時間が増えます

ふだん、お子さまと思いやりや勇気、友情や夢、生き方などについて、話をする時間はありますか？  
毎日、慌ただしく過ごしている中で、家族みんなで話す時間を確保することは、難しいですね。しかも、親子で面と向って、そのような話をするのも、ちょっと照れくさい…という方もいるのではないのでしょうか。

でも、1冊の本を「読む」ことをとおして、家族でその1冊について話してみると、案外照れくさくなく、友情や生き方などについて、みんなで意見を交わし合うことができます。

その会話をとおして伝えられる  
思います。1冊の本を介して、  
みませんか？



ことが、互いにあるのではないかと  
家族のコミュニケーションを深めて

## 家読は、人生を

## 豊かにします

国立青少年振興機構では、「子どもの頃の読書活動」と「成長してからの意識・能力」についての関係を明らかにするために、全国で成人約5千人、中高生約2万人を対象に調査をしました。その結果、子どもの頃の読書活動が、成長してからの意識・能力に大きな影響を及ぼしていることがわかりました。

○子どもの頃の読書活動が多い大人ほど、未来志向や社会性などの「意識・能力」が高いことがわかりました。また、子どもの頃に読書活動が多い大人ほど、ボランティア活動に参加している人が多い傾向にあります。

○大人と同様に、子どもの頃(就学前から中学時代)の読書活動が多い中学生や高校生ほど、現在の「意識・能力」が高いことが。例えば、小学校に入学する前や低学年時に読書活動が多かった中学生や高校生は、人を思いやる気持ちや社会のルールを守る意識などの能力が高い傾向があります。

～出典：独立行政法人 国立青少年教育振興機構「子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究」より～

参考 HP について

家読のやり方→うちどく.com

<http://uchidoku.com>

お問い合わせ

山梨県教育委員会社会教育課 055-223-1773

